

目指す学校像	「喜んで登校(出勤)、満足して下校(退勤)」 心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子を育成する学校
重点目標	1 児童が「本気で学ぶ」授業の創造 2 落ち着いた教育環境の創出 3 常盤エリアの子どもたちの健全育成 4 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実(学校研究を通して)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○日頃の学習の様子から、与えられた課題について既習を生かして解決しようとする意欲がみられる。 (課題) ○学習の問題を追究・解決する段階で、「吟味・検討」する学びを充実させ、そのための指導法を研究する。 ○授業で学んだことを、生活の中の事象に関連付けて、さらに追究しようとする意欲を喚起する指導の工夫が必要である。	・「本気で学ぶ」児童の育成 ・「学びを追究する」児童の育成	1 「自分発→みんな経由→自分行き」をキーワードに、「吟味・検討」する活動を通して自分の考えを表現する授業を展開する。 2 学校での学びを人生や社会の在り方と結び付けて理解し、自分の学びを確かなものにする授業を展開する。	1 学校研究アンケート(児童)の「自分の学び方」、「学び合いについて」の評価項目における肯定的回答の上昇。 2 学校評価アンケート「学校は、考える力や表現力を高めるような授業の実施に努めているか」の肯定的な回答90%以上					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。 ○登校や集団での生活に対する悩みを抱く児童やいじめに遭う児童がいる。 (課題) ○コロナ禍による制約のある生活の中、ストレスを抱えた児童や保護者がより一層相談しやすい体制づくりが必要である。 ○落ち着いた環境においてのみ落ち着いた学習や生活ができるという意識や、児童自身が生活環境に目を配り、安全意識を高める手立てが必要である。	・教育相談、生徒指導等に係る組織的な対応の充実 ・安全に生活しようとする児童の育成	1 生徒指導、教育相談委員会や情報交換会を定期的に開催する。また、生徒指導や教育相談等に際して、情報端末を活用して指導の蓄積や分析を行う。 2 SC、SSWとも連携した相談体制を維持し、児童一人ひとりの状況を正確に把握する。 3 いじめや問題行動に、迅速、誠実、アフターケアを旨として対応する。教職員研修を実施する。	1 定期的に校内生徒指導委員会や情報交換会、教育相談日を開催したか。その際、情報端末を活用したか 2 学校評価アンケートにおいて、生徒指導・教育相談等に係る設問で肯定的な回答90%以上。 3 スクールカウンセラー等の来校日を保護者に周知し、活用されたか。 4 講師を招いたいじめ防止教室や校内研修を実施したか。					
3	(現状) ○昨年度、学校運営委員会準備会を立ち上げた。常盤中、常盤北小との3校合同準備会も行い、中学校区で目指す子ども像の共有を図った。 ○コロナ禍のため、保護者に公開する行事をその時々状況により制限せざるを得なかった。 (課題) ○学校運営協議会の本格実施の今年度は、家庭、地域等と連携して、目指す子ども像の実現に向けた具体的な活動に取り組む必要がある。 ○保護者に公開する行事等を、その時々現状を的確に把握し、感染症対策を徹底した上で実施する方法を検討していく必要がある。	・「常盤エリア」を意識した学校運営協議会の開催 ・目指す児童の姿を家庭や地域で共有するための教育活動の公開	1 3校合同での学校運営協議会や本校単独の協議会など、時期に合わせた効果的な協議会を開催し、9年間を見通した活動に取り組む。 2 学校運営協議会の内容や具体的な活動について、保護者や地域へ積極的に情報発信する。	1 学校運営協議会において熟議した内容を教育活動等に反映したか。また、「コミュニケーション力の育成」に計画通りに取り組んだか。 2 学校評価アンケートにおいて、情報発信に係る設問に対して肯定的な回答80%以上。					
4	(現状) ○昨年度までの学校課題研究により、児童の「主体的で深い学び」の姿が見られる。 ○エバンジェリストを中心とした研修により、授業中におけるICT機器の道具としての活用が図られている。 (課題) ○ボトムアップによる学校研究を行い、教職員が自ら研究する姿勢を醸成する必要がある。 ○ICTを活用したからこそその学びの在り方や授業改善の研究が必要である。	・教職員のボトムアップによる学校研究の充実	1 研究主任を核とし、教職員のボトムアップによる研究を推進する。指導者として元教科調査官等の学識経験者を招く。 2 「主体的で深い学び」「対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実やICT機器を活用した指導法の工夫改善を、軌を一にした取組として研究する。 3 学習指導と関連付けた生徒指導を行う。	1 指導者を招いての研究授業や講話の学校研究を6回以上実施できたか。 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、ICTツールを活用した授業実践となっているか。 3 教職員の主体的な研究として、一人一研究に取り組んだか。 4 児童アンケートにおいて、学級経営の充実に係る設問における否定的回答の減少。					